第4回　志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会　資料

資料１

議題０　前回の振り返り　資料１

第３回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会の振り返り

議題１　都市計画マスタープラン（全体構想）について　資料２

1. 都市づくりの基本理念・戦略・目標・将来都市構造の整理
2. 都市づくりの目標と都市づくりの方針
3. 都市づくりの目標に向けた方針図
4. 都市づくりの方針

（1）土地利用の方針

（2）拠点づくりの方針

（3）防災・減災まちづくりの方針

（4）住まいづくりの方針

（5）道路・交通の方針

（6）水・みどりの方針

（7）景観づくりの方針

議題２　次回の予定について　資料３

令和8年10月15日(木)

第3回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会の振り返り

【第3回策定委員会 概要】

令和8年8月3日(月)14時から　403･404会議室　出席委員:22名中18名　傍聴者:3名

〇議題

1. 第2回策定委員会からの検討経過
   効果的な計画の策定を目指し、今後の計画策定方針を明らかにするための専門的な検討の経過を報告
2. 現行計画の評価(更新版)
   第2回策定委員会での議論を踏まえ、評価を細分化し再検討した結果を報告
3. 都市計画マスタープランの検討における「課題」の整理(更新版)
   現行の再評価を踏まえた再整理
4. 策定方針等の検討
   これまでの志摩市の都市計画制度活用状況、類似自治体の事例の調査等の結果を報告し、策定方針の検討結果を整理
5. 今後のスケジュール
   今後のスケジュールの報告
6. 次回の議題について(第4回･第5回)
   次回の議題の報告



第３回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会　意見対応表　（１／２）

No.	項目	発言者	ご意見	意見に対する考え方・対応策	資料等への反映
1	（3）課題①について	西尾（亮）委員	・阿児町国府・甲賀地区などでは、津波避難タワーにまっすぐ移動できる道路が少ない。歩行者が直線的に避難できる経路の整備を検討してはどうか。	・都市マス・立適の方針検討の参考とし、防災・市道関係部署にも意見を共有しながら検討する。	－
2	〃	中林委員	・津波避難タワーは階段を上る負担が大きく、高齢者等が実際に避難できるか懸念がある。階段以外の避難方法も検討する必要があるのではないか。	・津波避難タワー及び避難路の整備を引き続き進めるとともに、上りやすい避難タワーのあり方について今後の施策の参考とする。	－
3	（3）課題②について	西尾（重）委員	・生活の場と農地、山林が荒廃している。荒廃農地の整備を進め、居住地と森林等の境界を明確にするラインやゾーンを設定することも必要ではないか。	・今後の方針・施策の検討において、農林関係部局とも共有しながら検討する。	－
4	〃	濱口委員	・海の見える場所への移住ニーズがある一方、国立公園等の建築規制によって移住希望者を取りこぼしている可能性がある。一定の条件のもと規制・緩和を検討できないか。	・移住促進は重要施策である一方、国立公園や防災面との調整が必要。担当部署と共有し検討する。 （三宅副委員長より） ・規制の緩和・調整には地元との協議を伴う仕組みが必要。	－
5	（3）課題⑤について	平野委員	・元気な高齢者の有償ボランティア等により公共交通を支える仕組みを検討してはどうか。公共ライドシェア等を活用し、市全体で捉え、高齢者が安心して免許返納できるよう検討してほしい。 ・運転手不足への対応として、元気な高齢者を有償で活用することは、高齢者の活躍の場づくりにもつながる。地域の人材を活かす具体的な取組が必要。	・地域公共交通計画を所管する部署にも共有し、今後の参考とする。都市マスの方針に反映できる内容については反映を検討する。 （三宅副委員長より） ・デマンド交通では自治会やNPO等が買物支援等と一体で生活支援を担う事例がある。	－
6	〃	前川委員	・バスの便数だけでなく、バス停まで／バス停から目的地までの徒歩移動が高齢者等には大きな負担となっている。自動車を利用できない人の視点を踏まえて交通を考える必要がある。		
7	（3）課題②について	浅野委員長	・自然環境について、都市計画制度を活用して適切にコントロールしていくことが重要。	・ご意見を踏まえ検討を進める。	－

第３回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会　意見対応表　（２／２）

No.	項目	発言者	ご意見	意見に対する考え方・対応策	資料等への反映
8	（４）策定方針等の検討	東原委員	・「鵜方駅周辺」というより、都市機能が集まる「鵜方」という捉え方の方が実態に合うのではないか。また、鵜方に機能を集める場合、鵜方小学校周辺など狭い道路が多い地区を今後どうするかも検討が必要。	・現状、鵜方駅周辺には当初、目指したような機能集積や土地利用が図られているとは言い難く、改めて鵜方駅周辺における位置づけや方向性を明確にしている。狭あい道路が多い地区への対応は防災等に係る方針で記載していく。	－
9	〃	東原委員	・過去に都市計画制度の活用を検討しながら実現しなかった経緯を踏まえ、既存のルールを今後どのようにしていくべきか考える必要がある。公共交通についても同様の視点が必要。	・ご意見を踏まえ検討を進める。	－
10	〃	前田委員	・浸水リスクのある地域をどうしていくかは命に関わる重要な課題。住み慣れた地域で暮らし続けることとの両立をどう図るのか検討が必要。また、市外からの観光客を受け入れることも志摩市の生き残り戦略として重要。	・ご意見を踏まえ検討を進める。	－
11	〃	田岡委員	・現行計画で進展していない項目について、なぜ進まなかったのかを整理する必要がある。実現できない項目は次期計画から削除するのか。	・進展しなかった理由を念頭に置きつつ、まちづくりとしての理想は掲げ、次期計画には実現可能性の高い事項を中心に記載していく。	－
12	〃	三宅副委員長	・今後「どういう住まい方を目指すか」が重要。災害リスクを踏まえつつ住み慣れた地域に住む選択もあり、行政としては緩やかな誘導が考えられる。立適の条件整理だけでは捉えられない「暮らし」の視点を都市マスに盛り込むことが重要。	・暮らしの将来像（暮らし方像）を考えながら、その実現に向けた方針や取組について考えていく。災害リスクの高い地域への対応については、立適における防災指針等で検討を進める。	－
13	〃	浅野委員長	・都市マスと立適を活用し、将来にわたって市街地を維持する範囲や都市機能を残す地域を具体化していくことが重要。時間をかけながら維持・継続につなげる方向性を示していく必要がある。	・ご意見を踏まえ検討を進める。	－
14	（６）次回の議題	東原委員	・将来の漁村について、漁港背後の浸水リスクのある場所ではなく、少し高台に集落を配置し、そこから漁港へ通うような形も含めて事前復興ということか。	・事前復興の考え方を都市マスに盛り込める範囲で反映していきたい。高台への漁村集落の配置等についても、簡単ではないと思うが議論していただくべき課題として捉え、引き続き検討する。	－